

2018年度 年刊

六ヶ所村産業協議会 会報

編集/発行:第3委員会

『平成30年度定時総会』開催される

平成30年度定時総会が5月24日に『スパハウスろっかほっか』にて開催され、前年度事業・収支報告及び新年度事業・予算計画・理事退任(退任者:種市治雄氏)について討議・承認され、千田昇会長のもと今年度の活動をスタートする。



【会長挨拶】

平成30年度の定時総会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。皆様には、何かとお忙しいところご出席を頂きまして、ありがとうございます。また、当協議会の顧問をお願いしている戸田衛村長ならびに日本原燃(株)工藤健二社長は、多忙な中にも日本原燃(株)を賜り厚く御礼申し上げます。当協議会には、平成16年4月に42社の会員でスタート致しましたが、現在114社となっております。橋本良春会長、松井典夫会長の後を引き継ぎ、「地元勤労者の技術力向上と地域産業経済の健全な発展に寄与すること」という設立当初の趣意から逸脱することなく、堅実に活動を進められ、これは、会員の皆様のご協力とご理解のおかげです。お礼申し上げます。また、ご報告をさせていただきます。1つは、役員会や中央公民館で開催された定例の役員会(村室内温水プール)、戸鎖公民館などで

役員自身が村内をもっと知ろうというところで開催場所を変えて実施致しました。2つ目は、これまで毎年開催していたゴルフコンペに戸田村長にも参加頂いてチャリティコンペとしたことであり、集まった浄財は少年非行防止活動をしていく「JUMPチーム」へ活動用ジャンパーを寄贈させて頂きました。3つ目として、太平洋沿岸クリーンアップ作戦に加え、単独で、観光資源の美化運動として村内行楽地「泊置岩海岸」清掃奉仕活動を実施致しました。岩のトンネルを抜けたら風光明媚な海岸がひっそりと広がっており、その海岸近くには「滝の尻大滝」、岩の間から海水が噴水のように噴き出すという「ぼちち」。会員企業の皆様に村の素晴らしさを知って貰うことを目的に、平日ではありましたが、33会員85名の参加を頂き実施致しました。終了後、これから六ヶ所村の当地グルメとなるであろう「鮎カレイ」を参加者全員で頂きました。また、「こういう名所があることを初めて知った。知り合いを連れてゆくり見に来たい」という方もおられ、良い企画であったと思っております。最後になりますが4つ目として、これまで国内としていた視察研修を海外としたことでもあります。再処理工場の竣工を目前としている現在、地元企業として準備しておかなくてはならないこと、考え方や、フランス「ラ・アーグ」再処理工場をはじめ、周辺の協力企業や自治体を訪問して勉強して来よう、昨年10月1日より8日間、橋本副村長にも同行頂き会員企業19社総勢23名で行って参りました。再処理工場が操業しての40年後の未来を見るものが出来たこと、様々な助言を頂いたことは、これからの六ヶ所村にとっての研修になりました。多大なる補助金をご承認下さった戸田村長、ならびに再処理工場や周辺企業との視察をサポート頂いた日本原燃(株)工藤社長に改めて御礼申し上げます。当協議会は今後も村の産業経済の発展を目指し、さらには、村一番の企業である「安全と安心を支える技術者」として、地元勤労者の育成とレベルアップを進めて行きます。この技術は原子力のみならず産業全般に通じ、会員企業のさらなる発展にも結びつくものと思えます。また、清掃活動など地域への貢献活動も継続して行きたいと思っております。会員の皆様、今後ともご理解・ご協力のほど宜しくお願い致します。最後になりましたが、本日提案し

ております各議案の審議がスムーズにいきますよう、ご協力をお願いします。また、会員の皆様の今後ますますのご健勝とご活躍・ご発展を祈念致しまして、総会の開催に当たっての挨拶と致します。

【来賓者祝辞】

六ヶ所村長 戸田 衛 氏



日本原燃株式会社 代表取締役社長 工藤 健二 氏



総会 第2部 【記念講演】 演 題:地球深層部調査船「ちきゅう」の挑戦から見えてきた 新たな科学の地平

講演者:国立研究開発法人海洋研究開発機構 地球深層部調査センター <http://www.jamstec.go.jp/odex/> センター長 倉本 真一 氏



【懇親会】 会場を同施設「レストラン フォレスト」へ移動し、情報交換会を開催する。



▲講演者への記念品贈呈 贈呈者:当協議会事務局 六ヶ所村役場 政策推進課 課長心得 吉岡主悦 氏

六ヶ所高校総合学習

『村内企業研究会』への協力

6月19日、全生徒(195名)を対象とした『第11回 村内企業研究会』が開催された。当協議会は毎年参加し、今回は25企業・団体当協議会会員22社含むが参加となりました。



本研究会は、生徒の将来の職業選択へ向けたキャリアプランニング(働くこと)の意義や役割、将来設計など醸成を目的として、生徒自身が興味のある各企業のブースを20分ごとに3つ訪問し、事業内容、社会・職業人として要求される人材像等について説明を受けるとともに、自分の進むべき道を探るための質問が活発に交わされた。

『第5回独身者交流会』開催

昨年カップル成立者の中から 一組が、結婚に至る!!

7月7日『三沢市ミス・ビードローム』を会場に176名(男性107、女性69)参加により開催される。



本交流会は「地域・企業の将来を託す次世代、特に青年層の育成には人生基盤の構築が最も重要である」との考えから、垣根を越えたい人との出会いの機会を提供し、共助・研鑽できる仲間や伴いの獲得を醸成する目的で開催され、企画・運営 スタッフの全てを『六ヶ所エンジニアリング(株)』殿のご協力で成り立っており、気軽でフレンドリーな雰囲気の中で友達づくりが出来よう工夫がなされ、カップル成立者には『フレンチレス トラン North 40』へアディナー・プレゼントされることとなり、今回は22組のカップルが誕生しました。

『チャリティーゴルフ大会』開催

7月14日、当協議会顧問である戸田衛六ヶ所村長をお迎えし、参加人数47名にて『下北スリーハンドレッドゴルフクラブ』にて開催される。

優勝 山田 敬二 日本原燃分析棟 準優勝 吉田 裕悦 青森クリエイト 第3位 橋本 優輔 青森日揮プランテック(株)



JUMPチーム 図書券寄贈

10月17日、六ヶ所村役場において当協議会主催のチャリティーゴルフ大会収益浄財を少年非行防止活動へ役立てていただくため『活動参加者への贈呈品(図書券6万円分)』を寄贈する。



左:当協議会 第三委員会 委員長 坂本良盛 右:尾駮交番連絡協議会 会長 金澤光秀 氏

【用語説明】 青森県警インターネットホームページより引用

『JUMP』は、21世紀を担う青森県の少年がさらに飛躍し、大きく「ジャンプ」してほしいとの願いと、「少年非行防止」の英語の頭文字をとって命名される。「少年非行防止JUMPチーム」は、少年自身の「規範意識の低下」を防ぐために、中学生・高校生から少年自らを通じて学校の仲間、さらには地域の皆様も一緒に通じて、県内全体に非行防止の輪が広がることを目的に、平成11年から結成されています。平成23年度からは、小学生が『リトルJUMPチーム』員として委嘱されています。

『第14回 太平洋沿岸クリーンアップ 作戦』奉仕活動に汗を流す

7月21日 594人(当協議会員406名含む)参加により、尾駮漁港から出戸地区までの約2.8kmの海岸清掃奉仕に汗を流し、約3tのゴミを回収する。



地域奉仕活動 に汗を流す

8月22日 村内観光資源の美化活動として『第2回清掃奉仕』を73名(30会員)参加により、泊置岩海岸清掃奉仕を実施回収ゴミ約200kgする。作業終了後、泊置岩海岸の厚意により、名産のイカを使った『海鮮カレー』を振る舞い頂き、更なる奉仕への糧となりました。



役員・事務局人事

【事務局変更】 4月1日付 六ヶ所村役場組織変更により当協議会事務局担当部署が「商工観光課」から「政策推進課 観光グループ」へ変更。

【役員】 7月18日役員会において5月24日副会長「種市 治雄」氏退任に伴う副会長・理事後任者を選出する。 副会長「附田 角栄」氏 理事「金濱 智哉」氏

県外施設視察 開催

9月26日から二日間にわたり、会員企業... 17社20名参加により実施される。

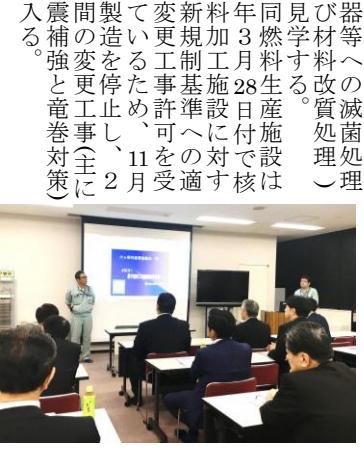
【1日目】大阪には、独自の起業スピリットが継承された長命企業が多くあり、その企業文化を知るために、次の2企業を訪問する。



パナソニックミュージアム



【2日目】原子燃料工業株式会社熊取事業所... 同燃料生産施設は本年3月28日付で核燃料加工施設に対する新規制基準への適合変更工事が完了し、11月に製造を停止し、2年間の変更工事（主に耐震補強と竜巻対策）に入る。



役員・事務局長人事

10月17日開催の役員会にて承認する。役員「藤野 卓」↓「吉岡 聡」事務局長「及川 健一」↓「小泉 春和」

「役員会 施設視察」を開催

11月21日、戸田衛六ヶ所村長、当協議会顧問に併せて13名にて実施。今回の目的は、将来の日本原燃株式会社MOX燃料工場操業への知識習得第二弾（第一弾は当該会報「原子燃料工業株式会社熊取事業所」参照）として、同社再処理施設のCA建屋（ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋）及びCB建屋（ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋）AG建屋（制御建屋）の視察が開催された。



見学前後に施設説明と意見交換を実施

村内施設視察会を開催

12月7日、33名参加により、次の2施設の見学と情報交換会が開催された。

【施設見学】国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 核融合エネルギー研究開発部門 六ヶ所核融合研究所

当該施設は当協議会として、2回目の見学（詳細は「平成25年会報」参照）となる。今年度は、本年6月に設置された『2代目スーパーコンピュータFRS-1（愛称：六ちゃんII）』の導入による国際的連携の強化を図ることを目的として、核融合分野の先進的な取り組みを学ぶとともに、核融合発電の技術開発について、最新の研究成果や課題を共有し、今後の技術開発に向けた情報交換を行う。



役員人事

16日開催の役員会にて承認する。役員「藤野 卓」↓「吉岡 聡」事務局長「及川 健一」↓「小泉 春和」

「核燃料サイクル推進フォーラム」開催

2月20日、六ヶ所村文化交流プラザスワンにて「21六ヶ所村を考える会」主催によるフォーラムに、後援団体として参加。総出席者数210名、当協議会出席者138名（総出席者数の26.7%）。

「開会挨拶」

六ヶ所村を考える会 会長 橋本 竜 氏



「基調講演」

演題「なぜ、再処理工場は必要なのか？」 講演者：元核燃料サイクル開発機構 理事 川田 東海夫 氏



千代田テクノル(株) ライオンエレクトロニクスセンター青森

同社（本社：東京）は「放射線が人類に与えるデメリットを極限までゼロに抑え、安全な放射線を利用する企業」として、放射線に関する事業（測定業務、測定・医療機器製造、及び放射性同位元素の製造・販売、コンサルティング等）を展開し、同センターを開設し、同センターを核融合エネルギー研究開発部門及び産業用放射線機器製造・販売、コンサルティング等を行う。



「情報交換会」

施設見学後に「スパハウス ろっかぼっ」にて開催された。

「問題提起」

演題「プルトニウムは余剰なのか。核燃料サイクルの意義を再考する。地球温暖化のリスクと原子力発電、核燃料サイクルの意義」 講演者：東京工業大学 先端原子力研究所 特任教授 奈良林直氏



【パネリストディスカッション】右記「問題提起」について7名のパネリストによるディスカッションを開催する。

Table listing coordinators and panellists for the discussion, including names like Yonehiro Akihiro, Yamada Hiroshi, etc.

「会員状況」について

会員状況は入会1、退会0により総会員数115（特別会員5、会員106、賛助会員4）

Table showing membership status with columns for category, organization name, and date.

各種の技術支援講座及び会費・情報交換会を開催

平成30年度事業活動の開催状況は別表「表1」技能講習・資格取得講座・技能訓練支援等開催状況及び「表2」会費・情報交換会等開催状況の通り。

Table 1: Skill training, qualification courses, and technical training support. Lists various courses, dates, and locations.

Table 2: Meetings, information exchange, and other activities. Lists events like the general meeting, site inspections, and seminars.

注釈 注-1 「青森原燃テクノロジーズセンター」殿の講習協賛

「会報」バックナンバーの閲覧方法について... 提供URL: http://www.rokkasho.jp/index.cfm/11_0_31_177.html

《2019年度 親睦行事 予定》 多くの方の参加をお待ちしています！ 第6回 独身者交流会 開催 日時：平成31年7月6日(土) 12:00~ 場所：三沢市 ミス・ビーレドーム 親睦チャリティーゴルフ大会 開催 日時：平成31年6月29日(土) 7:53~ 場所：下北スリーハンドレッドゴルフクラブ